



発行  
国立市公民館  
〒186-0004  
国立市中1-15-1  
☎ 042-572-5141  
FAX 042-573-0480  
休館日：毎週月曜日

# くにたち 公民館 だより

## 「図書室のつどい」(3月2日実施) 講演要旨

### ゴリラを通して「ト」を知る

お話 山極 壽一 (京都大学)

人間の社会とは何か。約30年間にわたりアフリカ各地の熱帯雨林でゴリラの生態調査を行ってきた国立市出身の山極さんに、現地で撮影したゴリラの映像を交えていただきながらお話をうかがいました。ゴリラを「鏡」にすることでみえてくる、ヒトの特徴。ヒトとはいったいどんな動物なのかを考える機会になりました。

#### 誤解されてきた「ゴリラ」

1846年、ダーウィンの進化論ができる少し前にゴリラは発見され、1855年にロンドン動物園で初めて一般公開されました。

その時、凶暴で残忍で戦い好き、人間の女をさらってくる不気味な森の怪人というイメージで語られました。それが常識になり、ゴリラはこういうものだと思われてしまったんです。

ゴリラが人間に近いとすれば、人間の祖先はゴリラと同じような性質を持っていたのではないかと。その誤解は人間の祖先の誤解にもつながりました。

ゴリラはその誤解されたイメージから、大きな体のゴリラを撃つことがハンターの名利になりました。

た。動物園に送るため、博物館に

標本を送るために、数万頭から数十万頭のゴリラがアフリカで殺されました。現在ゴリラの数が非常に減っていますが、そのときの誤解が悪い結果を生んだのだらうと思います。

ゴリラが長い間誤解されていた要因は、ドラミングという胸をたたく行動にあるとわかりました。

19世紀の探検家はドラミングを

「戦いの宣言」だと思っただけです。しかしこれは

戦いの宣言ではなく、興奮を表現する行為です。戦いをするわけではなく、興奮を表現する行為です。

という宣言提案です。「私はあなたに負けないけ



ドラミングをするオスゴリラ

なかつた。そのためにゴリラはずっと誤解されてきました。

#### 食物を共有する人間

人類の進化については19世紀以来、考え方が変わってきました。

ダーウィンが生きた時代、言葉というものが非常に重要だとされていたため、人間は思考能力によって他の動物と分かれていたと判断されていました。

しかし人類が約700年以上も独自に進化してきた歴史のなかで、言葉があらわれたのはたった数万年前です。人類の進化のほんの最近の出来事にすぎず、言葉は、人類の進化を昔から促進してきた特徴ではないのです。

人間らしい特徴が最初にあらわれ、それが他の人間らしい特徴をつくり出したとすれば何か。

私たちは毎日仲間と一緒に食事をしています。当たり前のことだと思っているかもしれませんが、しかし、ヒト以外の猿や類人猿は食物を共有しません。猿や類人猿を観察すると、食物を共有することがいかに難しいことがわかります。

おそらくヒトは、食物を共有することがきっかけになり、家族とコミュニケーションができた私は

今考えています。

ヒトは徹底的に食物を分配する  
不思議な性質を持っています。

類人猿は食物を分配はするけれど、積極的に自分からあげるといふことは絶対にしない。まず、もらうほうが「くれ」と要求をします。でもすぐにはくれないから執拗に相手の顔をのぞき込んだりする。やったことについて何らかの返礼を期待するような行動を示す。

強いものがなぜ自分の食欲を抑えて相手に食物を渡すかというところ、自分の社会的地位が自分だけでは守れないから。何かを与えることは、自分の支持者をつくるということにつながっているわけです。

ヒトのどの社会でも、食事をけちる者は非常にさげすまれます。

それは、食物というものを社会化の手段として非常に根深く利用してきた歴史が埋め込まれているからだと思います。

食事を共にするといふことは、共感を育む大きな効用があります。共感とは、相手が感じていることを自分も感じられる能力と簡単に考えてください。



### 「負けない」「勝ちたい」

ゴリラに特有なコミュニケーションの方法があります。それは対面するという行動です。ゴリラはじつと顔を見つめ合います。それは挨拶、あるいは相手を遊ばせようとする行動だということがわかってきました。

背中白い大きな雄2頭が向かい合っている。若い雄がやってきて、間に入って両方の大きなゴリラの顔をじつと見つめてなだめてしまっています。雄は闘いたくない。仲裁者が来てくれればメンツを持つて引き分けられる。つまり勝負負



ぶつかりあおうとする雄の顔をのぞきこむ若い雄

けを決めずに引き分けられる。これがゴリラの目指しているところだ。

我々はひよつとしたら、「勝ちたい」ということと「負けない」ということが一緒だと誤解しているかもしれない。ゴリラの社会で、「負けない」という行動のゴールにあるのは対等な立場です。

人間社会は「負けまい」とする社会をつくってきたはずなのに、「勝ちたい」という社会を目指してしまっているような気がします。「勝つ」という行動の先にあるのは孤独です。でも「負けまい」とする行動は相手を失わなくて済む。ただし、誰もが「負けまい」と思っている社会には仲裁者が必要です。ゴリラはそういう社会をつくっているのだと思います。

そのために、対等に相手と向かい合うという対面交渉が発達したんだと思います。



### 人間が対面することの不思議

人間も対面します。朝起きてから寝るまでに何人と何回対面したか。たくさん対面しているはずなんです。ただし今は携帯とかインターネットが盛んになり、電話が多いので対面を実際に行っていないのか

もしれない。基本的に会話は対面をして行うものです。不思議だと思いませんか。もし会話が情報交換をするだけの機能しかないのなら、対面する必要はありません。

人間のコミュニケーションは言葉によって情報交換をするだけじゃないのです。

しかし人間は対面する時に距離を置きます。なぜか。目を見てもみることもおもしろいことがわかります。ほかの猿や類人猿には白目がありません。

私たち人間は相手の目のほんのわずかな動きを捉えて相手の心をモニターしています。もちろん目だけではいけません。顔の非常に微細な表情を捉えて、相手の気持ちを押さえています。

私たちは言葉を交わし合っているような気がしていきながら、実はそれ以外の顔の表情や目の動きで、相手の自分に対する評価や、自分が相手にとった態度を相手はどう感じているかということを判断しているんです。たとえば重要な商談をするときには必ず人に会いましょう。

しかも相手と会うことによって、それまで言葉だけでやりとりしていたものが、一気に解けることがある。それは非常に



「広い世界をみてみたい」と思い、京都、そしてアフリカへ

曖昧なものなんだけれども、気持ちを通じ合わせようとする人間にとって最良の手段なのです。人間はおそらく、それを言葉以前の時代から発達させてきた。そっちのほうが多分重要で、いまだに。だから人間は食事をするときに向かい合う。言葉を交わし合うときに向かい合う。向かい合って言葉には乗せられない情報を交換し合っているのだらうと思います。



### 人間の社会で重要なこと

人間は言葉を発明して共感能力を高めた。でもその共感能力自体は猿のころからあって、言葉によって、その共感能力やその範囲が広がったということを表しているんだと思う。

共感能力は人間が社会をつくる上で一番重要で、人間の持つ普遍的な社会性というのは、私は次の3つに尽きるだらうと思います。

① レシプロローカル(互酬性)  
互酬性とは、何か相手にしてあげればお返しを期待できる。何かしてもらえれば相手に何かしなくちゃいけない。相互依存的な関係を前提とする関係のつくり方です。

② プロソーシャル(向社会性)  
お返しを期待しない。でも相手に奉仕したい。相手のために何かしてあげたいと思う気持ちです。

③ アイデンティティー(帰属意識)  
人間はある帰属意識をずっと生み維持し続けるという特徴を持っています。これらは共感という感性に基づいていると思います。



共感の起源

共感というのは、共同保育と食物の共有によって生まれたと思っています。ヒトというのは、食物分配をどの文化でも日常的に行っているんです。

食物分配を頻繁にやるタマリン、マーモセットという種類の猿がいます。これらのサルとヒトに共通する点は、子育てを共同で行っていることです。子育てを共同することによって食物を共有することになったという経緯が、人類の進化史の中に埋め込まれているんだらうと私は考えています。

人間の社会性の根本になっている共同保育と食物の共有は、どちらも生物学的な特徴です。それを達成するためにヒトは社会をつくった。熱帯林という環境から離れてヒトが暮らし始めたというところが、食物の共有という必要性を増し、それを達成するためにヒトは現代に至るような社会をつくっていった。

私のアフリカにおける先生ダイアン・フォッシーは、世界で初めて野生のゴリラに手を触れることができた人です。彼女はゴリラを愛するあまり地元の人と非常に強い敵対関係に陥ってしまった。ある日、惨殺されました。そこから次のことを学びました。



先生の死から学んだこと

1つは、ゴリラの研究はゴリラの保護なしに継続できない。ゴリラの保護をしながら研究をするためには現地の研究者を育て、一緒に研究をしなくてはならない。2つめは、地元の人たちと一緒に保護しなくてはならないということ。

そのために、ゆっくり成果を焦らずに現地主導でやっていくことを目指したポレポレ基金というものをアフリカでつくりました。



地元産業と環境教育

ゴリラの住んでいる場所は生物多様性が非常に高いところにあります。生物多様性が高く、希少な固有種が絶滅の危機に瀕している場所をホットスポットといいます。実は2000年までの50年間に起こった主要な武力衝突の90%以上はホットスポットの周辺、80%以上がホットスポットの中で起こっています。

生物多様性が高い地域は人口密度も高く、地下資源も豊富なため人々の争いが絶えないといつて間違いないと思います。人々の手によって森林が破壊され、野生動物が獲られ、生物多様性が失われていっています。

地元の人たちにとっては、動物も含めた森林資源、これは生きる糧です。それを利用しなければ地元の人たちは生きていけない。抑制するためにはそれを代替するような産業を地元でつくらなくちゃいけない。

その1つの方策がエコツーリズムです。エコツーリズムとは自然資源の劣化をもたらさことなく持続的な観光開発によって地元を経済効果をもたらす、その資源の価値に対する認識を高める効果が期待されている観光です。これには地元住民の参画が絶対条件になります。

また、今一番力を入れているのは、子どもたちの環境教育です。アフリカでは学校の教科書は全てヨーロッパから来ます。アフリカの自然について書かれたものは一切ない。つまり地元を知らないわけです。

そこで私たちは、ゴリラの映像を子どもたちに見せ、森の中にはこういうゴリラがいるんだよ、と話しています。



生物多様性

保全のために

これまでの活動を通して、生物多様性の保全には次の4つが大切であると思っています。

① 生物の個性を知ること  
私もゴリラの群れの中に入って初めて、ゴリラの1頭1頭が個性



26年ぶりに再会したゴリラのタイタス!!

を持った生き物であるということがわかりました。

② 生物の歴史を知ること  
ゴリラ1頭1頭を見ていてはわからないけれど、ゴリラという種を見ると、そこには何百万年という進化の歴史が反映されている。そこで、我々ヒトとの共通点や相違点をきちんと実感することが重要だということ。

③ 命のつながりを知ること  
我々はゴリラ、チンパンジー、あるいは日本に生きている生き物ともつながっているということですから。そのつながりは単に出会って触れ合うだけではなく、遠い昔の祖先をたどりながらそのつながりを知ることが重要だと思えます。

④ 自分の縁を知ること  
自分が現在生きているということがどういった縁によって成立しているのか。

私は国立市を出て京都に行き、多くの人たちと出会い、アフリカに行つて現地の指導者を得てゴリラの研究をするようになりました。それは自分の縁だと思っています。その縁を断ち切ることもなくいかしていきたいと思います。それが結局は生物多様性の保全につながるんだらうというふうな思っているところです。※掲載したゴリラの写真は山極さんに提供していただきました。

## 介護の話、してみませんか

多くの介護体験者と接してこられた小谷あゆみさんは、「介護の達人は同時に人生の達人である!」とおっしゃっています。さまざまなエピソードや思いを伺いながら、介護をする人、される人の思いを共有できればと思います。

これまで2年間の「介護短歌」の講座で生まれた短歌作品も紹介し、2回目以降は皆さんで作品づくりに挑戦します。介護の中で感じたつらいこと、悲しみ、怒り、時には嬉しいことを31音で表す短歌は、介護の息抜き、心の整理につながるものです。

介護短歌を聞いて、詠んで、地域の中の身近な思いと一緒に寄り添っていきましょう。

回	月 日	テーマ
1	7月21日(日)	「介護の達人は人生の達人!」
2	8月10日(土)	介護短歌ってどんなもの?
3	9月1日(日)	介護短歌 作品発表会

いずれも昼2時～4時

\*初回だけの参加も受け付けます。お気軽にお越しください。  
\*介護で忙しい最中にいらっしゃる方にぜひお声かけください。

講師 小谷 あゆみ

(フリーアナウンサー、NHK Eテレ「福祉ネットワーク 介護百人一首」司会)

ところ 公民館 3階講座室

定員 30名(先着順)

申込先 公民館 ☎ (572) 5141 (電話可)

\*講座に参加できない場合、作品提出のみも受け付けます。  
作品提出締切 8月23日(金)

【憲法講座】

## いま、改めて憲法の役割を問う

講師 阪口 正二郎 (一橋大学、憲法学)

現在、憲法の改正が注目を集めています。こうした議論についての是非は、さまざまな立場や考え方があるかと思えます。

この講座では原点や本質に立ち戻り、憲法とは何か、その役割を考える機会にしたいと思えます。

一橋大学の法科大学院長を務める阪口さんに、憲法の役割や憲法改正、そして「3.11」後の表現の自由についてなど、2回にわたりお話していただき、私たち一人ひとりが考えていく「ヒント」を提供していただきます。



〈第1回〉「憲法改正問題と憲法の役割」

と き 7月16日(火) 夜7時～9時

〈第2回〉「3.11後の表現の自由と社会」

と き 7月23日(火) 夜7時～9時

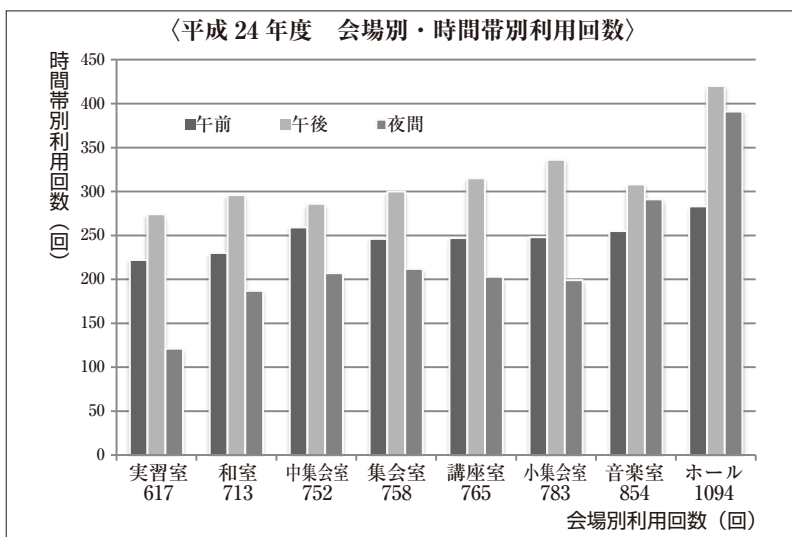
<阪口さんの本>

『立憲主義と民主主義』(日本評論社)、  
『岩波講座憲法(5) グローバル化と憲法』(岩波書店)、  
『危機の憲法学』(奥平康弘・樋口陽一編、弘文堂)

ところ 公民館 地下ホール

定員 50名(申込先着順)

申込先 7月7日(日) 朝9時～  
公民館 ☎ (572) 5141



比較すると、すべての会場で午後の時間帯の利用が多くなっています。ホールや音楽室以外の会場では夜間の利用が比較的小さい状況です。(棒グラフ)。  
より多くの市民の方々に公民館をご利用いただきたいと思えます。お気軽にお問い合わせください。

●多くの方に利用されています  
24年度の公民館の会場利用状況の統計では、1日あたりの平均利用者数は240人、年間利用者数は延べ7万3950人でした。

●夜間は比較的空きがありません

各会場の総年間利用回数は23年度を上回り、6336回となりました。

1日あたり240人が利用しています  
(会場利用状況)

〈文学読書会〉

# 現代ドイツ文学探訪

講師 松永 美穂

(早稲田大学、翻訳家、ドイツ文学者)

二つの大戦を経て、過去の歴史と向き合いながら今を生きているドイツ。ドイツの現代文学を読むことは、ドイツの今を知る旅でもあります。

今回は翻訳家の松永美穂さんと一緒に、ドイツを舞台にした文学3作品を読みます。ホロコーストをめぐる戦争責任の問題、女性の生き方と性をめぐる問題、高齢者介護の問題……。様々なテーマを投げかけるこれらの作品から浮かび上がってくるのは歴史と個人のあり様です。

現代ドイツ文学が映し出している現実と問いをご一緒に考えてみましょう。



◆第1回：7月25日(木)

ベルンハルト・シュリンク『朗読者』(新潮文庫)

◆第2回：8月29日(木)

多和田葉子『尼僧とキューピッドの弓』(講談社文庫)

◆第3回：9月26日(木)

エヴァ・パロンスキー『マグノリアの眠り』(岩波書店)

※各回で取り上げる作品を、事前に読んできてください。

図書を購入方法については、申込時にお知らせします。

時間 いずれも7時～9時(全3回)

ところ 公民館 3階講座室 定員 30名(先着順)

申込先 7月10日(水)朝9時～

公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

〈食の安全と安心を考えるシリーズ1〉

## 食中毒と食品添加物

～ 正しく知って、しっかり予防 ～

講師 高畑 薫(東京食品技術研究所)

土門 陽子(健康増進課 管理栄養士)

私たちの食生活は豊かになる一方、食を取り巻く環境は大きく変化してきています。健康を維持・増進するためには「食」の栄養素やバランスだけでなく、「安全・安心」も考えなければならない時代です。

この講座では、「食の安全と安心を考えるシリーズ」として、「安全・安心」な食を確保するためには、どのように行動していくべきかを考えていきたいと思います。

今回のテーマは、食中毒と食品添加物です。食品を正しく取扱うことで防げる食中毒と、食品検査により明らかになる添加物の実際について、お話をうかがいます。

とき 7月27日(土) 昼2時～4時

ところ 公民館 3階講座室 定員 30名(先着順)

申込先 7月9日(火)朝9時～

公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

みんなで考えよう! 地域ケアの未来  
孤立しない・させない  
高齢社会を支える地域の「絆」づくり

ゲストスピーカー 猪飼 周平(一橋大学)

ゲスト 国立市内のケアマネージャー

超高齢社会に向かう現在、市内で実際に起きている具体的な事例を考えながら、そこに隠されている地域コミュニティの課題に対して私たちはどう解決していくことができるのか、皆さんと考えていく講座の3回目です。

今回はケアの最前線にいるケアマネージャーと交流しながら、誰もが安心して暮らせる地域のために、これからの支えあいのかたちを探ります。今回からの参加も歓迎!

とき 7月20日(土) 昼2時～5時

ところ 公民館 3階講座室

定員 30名(先着順)

申込先 7月9日(火)朝9時～

公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

共催 高齢者支援課



〈くにたちブッククラブ 時空をこえる言葉〉

## 綿矢りさ『蹴りたい背中』

(河出文庫)

講師 榎本 正樹(現代日本文学)

とき 7月11日(木) 夜7時半～9時半

ところ 公民館 3階講座室

申込先 公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

\*次回は9月12日(木)丸谷オ一『輝く日の宮』(講談社文庫)です。

〈図書室のつどい〉

## 日本の地下水が危ない

～日本の「水」がなくなる日～

お話し 橋本 淳司

(ジャーナリスト、アクアスフィア代表)

外国資本による水源地買収や日本企業によるペットボトル輸出など、日本から流出する水の量は増えています。

一方、地下水の涵養装置である田んぼの減少や外国産材の市場独占による森林の荒廃など、新たに蓄えられる水の量は激減しています。グローバル化の加速は日本の地下水に大きな影響を与えていて、その背景には水を保全したい勢力と積極的に活用したい勢力があります。

地下水の枯渇をくい止めるためにはどうしたらいいか、一緒に考えていきましょう。

〈橋本さんの本〉『日本の地下水が危ない』(幻冬舎)、『日本の「水」がなくなる日』(主婦の友新書)ほか多数

とき 7月20日(土) 朝10時～12時

ところ 公民館 3階講座室 \*ご自由においでください。

## 第58回くにたち市民文化祭

### ◎総合美術展のお知らせ

実行委員会企画「市民総合美術展」を以下の日程で開催します。会場は公民館です。

◆期間 11月26日(火)～12月1日(日)

募集要項は8月1日以降、次の施設に置いてあります。皆様のご応募をお待ちしています!

#### 【募集要項配布場所】

公民館、中央図書館、郷土文化館、芸小ホール、福祉会館、北・南市民プラザ

### ◎第43回 国立市書道展への書作品公募

国立市書道連盟による「書道展」を以下の日程で開催します。会場は福祉会館です。

◆期間 10月12日(土)～13日(日)

一般入賞作品は、市内の商店などに無償貸出しします。詳細は申込時に。公募規定は事務局まで。

事務局 松岡☎(572) 1693

受付時間 朝10時～12時

申込締切 9月7日(土)

シネボックス 公民館映画会

《シリーズ「ニッポンの記録映画」vol.37》

『ディア・ピョンヤン～Dear Pyongyang～』

2005年 カラー 107分 DVD

製作 チェオン □ □ 監督・脚本・撮影 ヤン・ヨンヒ

劇映画『かぞくのくに』で昨年度数々の映画賞に輝いたヤン・ヨンヒ監督が、自分自身の家族を10年間にわたって追いつけた記録映画。朝鮮と日本の政治情勢に翻弄されながらも祖国の発展と家族の暮らしのために闘ってきた父親と、自由を謳歌して育った娘の世代間対立。そんな価値観の違いをものみ込んでしまう、あたたかでおおらかな家族の絆を描き出し、ベルリン映画祭、山形国際ドキュメンタリー映画祭などで絶賛された傑作。

とき 7月28日(日) 昼2時～

ところ 公民館 地下ホール

定員 85名(当日先着順。開場1時)

\*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

## 南市民プラザで親子向け事業を行います

親子で遊ぼう・考えよう(出張版)

### 夏休みスペシャル! in南市民プラザ

広いホールで、体を思いっきり使って遊びましょう。親子体操や段ボールを使ったゲーム、ボール遊び、スライム作りなど。大学生のお兄さんお姉さんと一緒にチャレンジしてみましょ。

講師 山田 修平(NPO法人東京学芸大こども未来研究所)、東京学芸大学の学生のみなさん

とき 7月21日(日) 朝10時～12時

ところ 南市民プラザ 多目的ホール(下の地図参照)

対象 子ども(3歳以上)と保護者

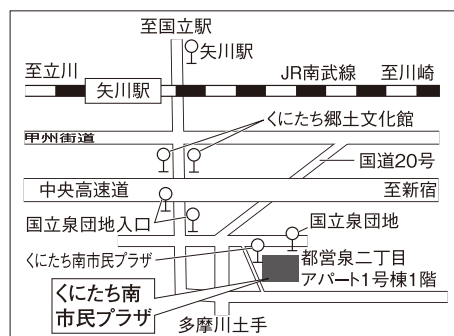
定員 25組(先着順) 持ち物 飲み物、タオル

申込先 7月9日(火) 朝9時～

公民館☎(572) 5141

\*動きやすく、汚れてもよい服装でおいでください。

#### 南市民プラザ付近の地図



## 映像で見る《宮澤賢治の世界》

宮澤賢治の叙情的かつ幻想的で独特の世界を、想像力豊かに、繊細に描いた秀作アニメーション3本をお贈りします。優しく、懐かしい映像世界をお楽しみください。

### ●『セロひきのゴーシュ』

(上映時間: 2時～2時20分)

1963年 カラー 20分 演出 神保まつえ

### ●『風の又三郎』(上映時間: 2時25分～2時55分)

1988年 カラー 30分 監督 りんたろう

### ●『注文の多い料理店』(上映時間: 3時～3時20分)

1991年 カラー 19分 演出 岡本忠成

とき 8月2日(金) 昼2時～3時20分

ところ 南市民プラザ 多目的ホール

定員 50名(当日先着順)\*ご自由においでください。



今年の緑のカーテンは、ゴーヤとキュウリ(裏口側)

今年も緑化ボランティアの力を得て、緑のカーテンや公民館敷地内の植物の手入れを行っています。季節の変化をお楽しみに。

緑のカーテン、育っています

# ひろば

(8ページにもあります)



カメの親子  
撮影 大井利雄 (中)

## 「つむぎの会」へのお誘い

童謡・唱歌・日本、世界の歌を楽しく歌いませんか。芸大音楽科卒の山岸公子先生がやさしく指導して下さいます。見学大歓迎。ご連絡をお待ちしています。

日時 第二・四水曜日 朝10時  
場所 北市民プラザ多目的ホール  
連絡先 新里(57) 1062

## 「国立カントリー」会員募集

4月に発表会を終え、来春4回目の発表会に向けスタート。楽譜が読めない会員ばかりですが、明るく楽しく混声合唱を練習していきます。男女会員大募集!! 見学可。

日時 第一・三(金) 昼1時半  
場所 矢川集会所  
連絡先 清水(57) 9440

## 「GOSPEL SOSメンバ」募集!

リズム感のある英語の歌。ゴスペルを地域で歌って12年。小学校や福祉施設等の出前コンサートもやっています。深い呼吸に音のせて目指せ! 美しいハーモニー。

日時 木曜日15時半、18時半  
場所 北市民プラザ 音楽練習室  
連絡先 葭野(80) (327) 6943

## 「テニスクラブ50」仲間募集

経験者も初心者も一緒にテニスを楽しんでみませんか。前半はコーチの指導で基本練習。後半は試合形式で楽しみながら良い汗を流しています。男女共募集。見学可。

日時 毎週木曜日 朝10時  
場所 谷保コート  
連絡先 本田(57) 1708

## 公民館ロビー “涼み処”にお立ち寄りください

涼み処は7月～9月末まで行っています。併せて、郷土文化館企画展「くにたち、あの日、あの頃」の一部をロビーで7月23日～8月4日まで出張展示します。



〈社会体育事業〉

## 小学生の水のサバイバル教室

(着衣泳教室)参加者募集!

もうすぐ夏休み。水遊びは楽しいけれど…もしもの時どうする? 服を着たまま水に入ったらどうなるかな?

さあ、楽しく体験しましょう。もちろん、泳ぎの苦手な子も大丈夫。その後は、プールで水遊びも待っているよ。みんな、たくさん集まれ～!

### 〈場所と日時〉

- ・第一小学校プール…8月7日(水)朝9時半～11時半
- ・第三小学校プール…8月5日(月)朝9時半～11時半
- ・第四小学校プール…8月7日(水)昼1時半～3時半

※申込み時にどちらの学校へ参加希望か明記してください。指導員 国立市スポーツ推進委員 堀 政代 他数名

対象 小学1年生～6年生(市内在学・在住)

### 申込方法

往復はがきの往信用裏に氏名(フリガナ)・学年・性別・住所・電話番号・上記のうちどちらの学校へ参加希望かを記入の上、下記までお申込みください。(はがき1枚につき1世帯まで可。記載漏れは無効とします。)

※返信用表にも住所・氏名を明記してください。

申込締切 7月29日(月)必着

申込・問合せ先

〒186-8501 国立市教育委員会 生涯学習課

「小学生の水のサバイバル教室」係

☎(576) 2107 (直通)

## 公民館運営審議会報告

6月11日(火) 第29期第8回例会を開催。委員13名、館長、職員2名が出席。傍聴6名。

### 前回の議事録確認

○諮問「現代の地域社会に求められる公民館の事業」について。配布資料についてそれぞれ説明を受けた。まず第19期国立市社会

教育委員の会の「地域による学校支援の方策について」答申文の内容については佐藤節子委員、「国立市における公民館事業の現状と課題」は職員が報告し、質疑応答を行った。その後、諮問にある二つの検討項目について意見交換を行った。答申に向けて今後どのよ

### 報告事項

○公民館だより編集委員会 「生こみ分解BOX」の反響が大きく、参加申し込みが多数となった。映画会にも多くの観客があった。

○社会教育委員の会 20期第一回定例会は5月28日(火)に開催し、「家庭教育支援の充実について」の諮問を受けた。次回以降は毎月第3火曜日の夜に開催予定。

○東京都公民館連絡協議会 委員会第一回研修会について。次回は7月9日(火)午後7時15分から。傍聴歓迎。(佐藤節子)

25年度ジュニア育成地域推進事業。小学1年～中学生対象。レベル別に公認指導員が担当します。参加費無料。先着80名。全6回。締切7月14日。国立市水泳連盟

日時 7月18、26日 16時～18時  
場所 総合体育館 室内プール  
連絡先 堀(57) 8381(夜)

# ひろば

(7ページにもあります)



## 国際友好会 WINGの会

7月のWING異文化コミュニケーションの会は、留学生のエル Deinさんをお招きしてモンゴルの文化について話し合います。参加費は100円です。

日時 7月11日(木)夜7時～  
場所 一橋大学内 国際交流会館  
連絡先 芦沢(575) 0474

## 夏の夜のおはなし会

毎月公民館で絵本の読み聞かせなどを行っている、がまだんさんなどの夏の夜のスペシャル版です。日本や外国の昔話を語ります。小学生以上。無料。申し込み不要。

日時 7月19日(金)夜6時半～8時  
場所 公民館 3階講座室  
連絡先 野田(574) 2010

## 段ボールで作る簡易トイレ

大震災時には水道が止まってトイレが使えない可能性があります。そんな時のために段ボールで簡易トイレ作りを体験しませんか。

主催 防災連絡会  
日時 7月31日(水)昼1時～  
場所 公民館 3階集会室  
連絡先 山崎(574) 4052

## 親子でいっしょにあそぼう会

緑豊かな風の子で先生と一緒に楽しもう。絵の具(7月)水遊び(9月)をします。雨天中止。申込不要。着替えをお持ちください。

日時 7月9日(火)・9月13日(金) 朝10時(受付は9時半)  
場所 国立富士見台団地幼児教室  
連絡先 風の子(576) 4898

## 第100回くいしんぼクラブ

### ウニさんの韓国料理

ヤンニョムチキンと大根のサムを作りましょう。材料費800円。ゴミ袋とふきんをご持参ください。

日時 7月20日(土)昼1時～  
場所 福祉会館 3階料理講習室  
連絡先 八宮(571) 1007

## ここがきたいソーラー発電

アパート、一戸建の施工から体験型環境教育センターも主宰する今井雅晴さんを講師に、自然エネルギー活用方法を学びます。くにたちエネシフクラブ。資料代500円。

日時 7月21日(日)昼2時～4時  
場所 公民館 3階和室  
連絡先 藤井090(475) 0326

## 今月の公民館 (7月、8月初)

\*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 11日(木)夜 くにたちブッククラブ  
「綿矢りさ『蹴りたい背中』」
- 16日(火)夜～いま、改めて憲法の役割を問う
- 20日(土)朝\* 図書室のつどい  
「日本の地下水が危ない」
- 20日(土)昼 高齢社会を支える地域の「絆」づくり
- 21日(日)朝 親子で遊ぼう・考えよう(南市民プラザ)
- 21日(日)昼～介護の話、してみませんか
- 25日(木)夜～文学読書会「現代ドイツ文学探訪」
- 27日(土)昼 食中毒と食品添加物
- 28日(日)昼\* CINEVOX 公民館映画会  
「ディア・ピョンヤン」
- 8月2日(金)昼\* 公民館映画会(南市民プラザ)  
「映像で見る《宮澤賢治の世界》」

## おかんめし。

〈サークル訪問262〉

「ちゃんとご飯食べとる？」と、電話口で私のおかんが言う。「食べとるよ」と言いながら、ついといコンビニや外食に頼ってしまう。でもそんな時、国立には「おかんめし。」がある。



おかんの味で談笑

ない。学生の側も、下宿していると、ちゃんとご飯を作っていないことが多い。「こうしたいから、おかんと学生と一緒に食事を作って、食べながら交流する「おかんめし。」がスタートした。おかんの鶴田さんによると、大事にしていることは、「母親の世代がもてなすのではなく、一緒に作ること。その中で食への関心を高めてほしい、料理の楽しさを知ってほしい。」

毎月1回、主に公民館実習室で開催している。参加費は500円(初回は600円)。

今後は、「学生にこだわらず幅広い年代の方に来てもらいたい。活動を通して、国立のまちを歩いた時に挨拶を交わせる人を増やしていきたい」と、おかんの三宅さん。

一緒にご飯を作ると、初対面の人ともすぐに馴染みになることができた。人と人をつなぐご飯の力を改めて実感した。

連絡先 おかんめし。(三宅) okanmeshi@gmail.com

〈文・写真 島本優子〉